

■トピックス

VR文化フォーラム 2009 in 種子島 (皆既日食ツアー)

佐藤宗彦 (東京大学)

2009年度のVR文化フォーラムは、日本の陸地での46年振りとなる2009年7月22日の皆既日食に合わせ、鹿児島県種子島にて2泊3日の日程で開催された。7月21日に鹿児島県鹿児島本港に集合し、高速船で種子島へ入島、種子島で2泊したのち、23日に再び鹿児島本港で解散となった。例年の講演に加えて、皆既日食の観察と、種子島宇宙センターや種子島開発総合センター(鉄砲館)の見学ツアーも行われるなど、盛りだくさんの構成であり、50名の定員に対して、数時間で予約が埋まりキャンセル待ちとなるほどの大盛況であった。ご家族での参加も多く見られ、日頃学会会場で見かけるVR学会関係者のまた違った顔も垣間見られた。

22日皆既日食当日は、宿から観光バスにて種子島南端に位置する門倉岬へと向かい、他の日食観測者に混じり、午前10時57分50秒から午前10時59分19秒にかけての皆既日食を待機した。報道などで周知の通り、あいにく当日は天候に恵まれず、時折雲の合間から覗く太陽に一喜一憂しながらの観察となった。それでも、部分日食が開始しピークに近づくにつれ、みるみると辺りが薄暗くなり、虫が鳴き止み鳥の群れが電線に留まるといった様々な変化が感じられ、印象深い現象であった。

天候に恵まれた本土の方が綺麗な部分日食を観察できたとは聞かすが、この異様な体験は皆既日食の現場でしか味わえないものであり、また観察にチャレンジしたいと思わせるものであった。

種子島は河口洋一郎先生(東京大学)の出身地である。日食観察後は、JAXAの宇宙科学技術館や鉄砲館の見学を行ったが、ここでも河口洋一郎氏の作品が多数展示されていた。講演では、河口洋一郎先生より種子島での原体験とこれまでの研究・制作活動に関連したお話、原島博先生から阿修羅像の顔に関する考察があり、非常に興味深い内容であった。22日夜に行われた懇親会では、屋外特設会場にて種子島の山と海の幸を味わいながら、河口洋一郎先生の映像作品の上映や解説が行われた。また、先生の発想の原点となっている種子島の海の様々な生物を種子島の方達をご用意下さり、こちらも先生による解説ののち調理され、賞味した。

短いスケジュールの中で趣を凝らした様々なイベントが用意されており、非常に充実した3日間であった。最後に、今回のVR文化フォーラムを運営下さった幹事の安藤英由樹先生、河口洋一郎先生、VR学会事務局・種子島の方々に深い感謝の意を表して、参加報告とさせていただきます。



皆既日食観測風景



河口洋一郎教授による講演